

科学者委員会（第23期・第1回）議事要旨

- 1 日 時 平成26年11月19日（水）10:30～11:30
- 2 場 所 日本学術会議 第5-D会議室（5階）
- 3 出席者 向井千秋委員長、長野哲雄副委員長、小森田秋夫幹事、土井美和子幹事

- （第一部）久留島典子委員、
- （第二部）森正樹委員、大杉立委員、
- （第三部）萩原一郎委員

4 配布資料

- 資料1 科学者委員会概要資料
- 資料2 科学者委員会委員名簿
- 資料3 科学者委員会関係規程
- 資料4 地区会議関係資料

5 議 題

（1）科学者委員会の今後の運営について

- ・副委員長には、長野委員、幹事には、小森田委員、土井委員が選任された。
- ・10月23日開催の幹事会において、それぞれ親委員会が異なる2つの分科会を統合する形で広報・科学力増進分科会の設置が会長提案により行われ、11月21日に最初の分科会が開催されるが、学術の動向の編集やサイエンスアゴラの取り組みなどを一つの分科会で統一して議論したほうがよいのか、検討されることとなる。分科会の中に「分科会」が形成される可能性が在る。

（2）その他

①科学者委員会の委員の追加

- ・地区会議代表として、九州・沖縄地区会議の古谷野会員が科学者委員会のメンバーとなる件が承認された。（11月21日（金）の幹事会で決定）
- ・先生は2部の中でも積極的に発言している。

②地区会議運営協議会委員と会員・連携会員の所属地区変更願への対応

- ・メンバーの所属を見ると、かなりかたよっているのではないかと。中部地区、中国・四国地区は会員が少ない。これまでは問題になったことはないが、北海道地区は、勤務先が偏っている。学術会議では全国津々浦々細かな配慮が必要ではないか。
- ・各地域が不利益を被っていることは、記録に残すべきだ。これまで、地区会議については、クレームを挙げるルートがないため挙がっていない。クレームが上がる組織はないのが現状だ。
- ・もともと選出されている母集団が固まっている。大学でばらつかせるほどの人数ではなく、総合大学でしか入ってこない。7ブロックに分けて地区分散された。もっと、ばらつかせた方がよい。
- ・大学の関係はやむを得ない。一部、二部、三部のバランス、連携会員の肩書も含め、分野別に偏っていないことが重要だ。

- ・地域の自主性に任せている。今後は偏りがないように配慮する。資料4のとおりでよい。

③分科会報告

- ・組織運営等検討委員会のことが触れられていない。これはどういう事情なのか。
- ・組織運営等検討委員会は、当時の小林委員長の提案により、22期に科学者委員会のメール審議を経て、平成23年4月幹事会決定が行われた。ただ、まだ、委員も決定されず、開催実績もない。
- ・どのような経緯で設置されたのか、小林前委員長に聞いてみたい。その存廃については、それからでもよい。
- ・このことを記録にとどめ、次回委員会にこの運営要綱について、議題とするのがよろしいかと思う。
- ・親委員会として、今後、分科会の動向には関心を払ってまいりたい。必要に応じ、分科会の委員もされている各委員から報告をお願いするので、よろしくお願いしたい。

④次回日程

1月下旬から2月中旬頃の実施としたい。後日、事務局で調整する。

以上